

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
9月 ～ 10月	<p>気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう</p> <p>どんぎつね 【コラム】言葉を分類しよう 12時間(知・技①、読①) ◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語の結末についての感想を書く。</p>	1  2～6  7～8  9  10～11  12	<p>1 扉の詩・目次・P5「国語の学びを見わたそう」を読み、下巻の国語の学習を見通す。</p> <p>2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を</p> <p>3 登場人物に焦点を当てて読み、登場人物の行動や気持ちを確かめる。 ・初読の感想を書き留めておく。 ・登場人物の言動から、その人物の性格や境遇、気持ちを考える。</p> <p>4 登場人物の気持ちの変化を捉える。 ・情景から、人物の様子、気持ちを考える。 ・場面と場面を結び付けたり比べたりして、登場人物の気持ちの変化を考える。</p> <p>5 登場人物の気持ちの変化について考えたことを基に、物語の結末についての感想をまとめる。</p> <p>6 書いた感想をグループで読み合う。 ・新たに考えたことや思ったことを書き加え</p> <p>7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 ・単元で身につけた力をいかして、P150「手ぶくろを買いに」を読む。</p> <p>8 P35「言葉を分類しよう」を読む。 ・性質による言葉の分類があることに気づく。</p>	<p>【知・技】言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)</p> <p>【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。</p>
10月	<p>漢字を正しく使おう 2時間(知・技②) ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。(知・技(1)エ)</p>	1～2	<p>1 書くときや読むときに迷ってしまう漢字について考える。 ・漢字を正しく用いるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、関心を高め</p> <p>2 仮名で書くと同じになる言葉を取り上げて、適切な漢字の用い方について考える。</p> <p>3 送り仮名の適切な付け方について考える。</p> <p>4 いろいろな読み方をもつ漢字を取り上げて、それぞれの読み方とその用い方について考える。</p>	<p>【知・技】 ・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。(1)エ)</p> <p>【態】進んで同音異義語や送り仮名の付け方などについて理解し、学習課題に沿って、漢字を文や文章の中で使おうとしている。</p>
10月	<p>秋の楽しみ 2時間(書②) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■秋の行事の楽しさを伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)</p>	1～2	<p>1 挿絵や写真を見たり、短歌や俳句を音読したりして、秋の自然の様子や行事を表す言葉を考える。 ・絵や写真を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 ・短歌や俳句を読み、秋の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。</p> <p>2 好きな秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書く。書いた手紙を紹介し合い、感想を伝え合う。 ・日付や宛名等、手紙の書き方を確認する。 ・送る相手や伝える内容を明確にし、秋の自然の様子や行事を表す語句を使って手紙を書く。 ・手紙を言葉で表現するときを味わう。</p>	<p>【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に秋の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、秋の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。</p>
10月	<p>役わりをいしきしながら話し合おう</p> <p>クラスみんなで決めるには 8時間(話・聞⑧) ◎比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考</p>	1  2	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・クラスで話し合いたい議題を考える。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 役割を決め、目的と議題を確かめる。 ・話し合いにおける役割を理解し、分担する。 ・日常生活の中から必要性の高い議題を選ぶ。</p>	<p>【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして 伝え合うた</p>

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■役割を意識しながらクラス全体で話し合って考えをまとめる。</p> <p>☆役割を意識して話し合う姿勢を育てる題材(特別活動)</p> <p>☆自分と違う考えと接するときに、約束に則って適切に判断する態度について考える題材(道徳)</p> <p>☆ICT端末を活用した録音・録画(ICT活用)</p>	<p>3~4</p> <p>5~8</p>	<p>3 話し合いの準備をする。 ・P42-45の話し合いの例を、二次元コードで見られる動画で視聴したり、文章で読んだりして、気をつけるとよいことを考え、交流する。 ・司会グループや提案者、参加者がそれぞれ気をつけるとよいことを確かめる。 ・司会グループは進行計画を立て、提案者や参加者は議題に対する自分の考えをまとめておく</p> <p>4 クラス全体で話し合いを行い、気づいたことを振り返る。 ・話し合いを振り返り、よかったところや次に気をつけたいところを伝え合う。振り返ったことを基に、別の議題で役割を変えて話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>めに必要な事柄を選んでいいる。(A(1)ア)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>【態】積極的に役割を果たしながら話し合い、学習課題に沿って、考えをまとめようとしている。</p>
11月	<p>中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう</p> <p>未来につなぐ工芸品 工芸品のみりよくを伝えよう 12時間(書⑥、読⑥)</p> <p>◎事典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)</p> <p>■調べて分かったことなどをまとめて書く。</p> <p>☆インターネットを活用した情報収集(ICT活用)</p> <p>☆図書館を活用した調べ学習(図書館活用)</p> <p>☆我が国の伝統と文化を大切にすることを育てる題材(道徳)</p>	<p>1</p> <p>2~3</p> <p>4</p> <p>5~6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10~11</p> <p>12</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・P47を見て、題名やリード文から工芸品に対するイメージを広げる。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 中心となる語や文を見つけて要約する。 ・筆者の伝えたいことは何かを考えながら読み、文章の構成を捉える。 ・まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、それを用いて文章全体を200字以内で要約する。その際、4上P90「要約するとき」を参考にするとよい。</p> <p>3 工芸品や筆者の考えについて考えたことを、ノートにまとめる。</p> <p>4 要約した文章を使いながら、考えたことを伝え</p> <p>5 工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に伝える。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。</p> <p>7 工芸品についてのリーフレットを作る流れを確かめる。 ・P56「問いをもとう」「目標」を基に、学習のめあてを確かめる。</p> <p>8 紹介したい工芸品について詳しく調べ、分かったことを書き出して整理する。</p> <p>9 組み立てや資料の使い方を考える。 ・P58-59の作例を読み、資料の使い方など、リーフレットの書き方のよさを見つけ、自分の書く文章の組み立てや資料の使い方を考える。</p> <p>10 考えた組み立てに沿って文章を書く。 ・表紙や裏表紙を作って仕上げる。 ・元になる資料や事典の文章を読み返し、自分が伝えたいことの中心となる語や文が含まれているかを確かめる。</p> <p>11 リーフレットを読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】</p> <p>・事典の使い方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)</p> <p>【態】積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。</p>
11月	<p>慣用句 2時間(知・技①、書①)</p> <p>◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■慣用句の意味を調べて文を作る。</p>	<p>1~2</p>	<p>1 教材文を読み、昔から伝わる慣用句について知</p> <p>2 国語辞典を使って、P61の慣用句や興味のある慣用句の意味を調べる。 ・国語辞典にどのように例文が書かれているかを確かめる。</p> <p>3 国語辞典を作る人になったつもりで、提示された慣用句の例文を作る。 ・慣用句の意味を調べ、例文を作る。 ・作った例文を友達と交換し、正しく慣用句を使えているかどうか確かめ合う。</p>	<p>【知・技】長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。(3)イ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】進んで慣用句の意味を知り、学習の見通しをもって、慣用句を使った文を書こうとしている。</p>

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
11月	短歌・俳句に親しもう(二) 1時間(知・技①) ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1	1 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉の調子や響きを楽しむ。 ・おおよその意味が書かれた文を参考にして、言葉の響きやリズムを感じながら声に出して読み、風景や作者の心情を思い浮かべ、話し合う。 ・気に入った短歌や俳句を暗唱して楽しむ。	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
11月	漢字の広場④ 2時間(書②) ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1~2	1 絵を見て学校の様子を想像し、3年生までに習った漢字を使って、文章を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認、間違いを直す。 3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることよきを実感する。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書くようとしている。
12月	つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合う 友情のかべ新聞 8時間(読⑧) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■おもしろいと思ったところを伝え合う。 ☆関連図書の読書(図書館活用)	1 2 3~4 5 6~8	1 学習の見直しをもつ。 ・P65を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーから読みたい本を選び、並行して読む。 2 登場人物の性格や行動を確認する。 3 書かれていることつながりを見つけながら読み、人物の気持ちや関係の変化、「はく」は何を手がかりに推理したかを考える。 ・叙述と叙述とを結び付けながら、どのような謎が、どのような叙述のつながりで解き明かせようかを考える。 4 おもしろいと思ったところについて、理由とともに書きまとめる。 ・着目した謎と、それを解き明かす証拠の叙述を結び付けて、おもしろさを説明する文章に書く。 5 書いた文章を基に、おもしろいと思ったことを話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリーを読んでおもしろいと思ったところを伝え合う。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見直しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。
12月	理由や例を挙げて、考えを書こう ものものときにそなえよう 10時間(書⑩) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■調べて考えたことを文章に書く。 ☆自然災害に備えた防災学習(社会、理科) ☆インターネットを活用した情報収集(ICT活用) ☆図書館を活用した調べ学習(図書館活用)	1 2~4 5~6 7~8	1 学習の見直しをもつ。 ・自然災害への備えについて知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 テーマを決めて調べ、整理する。 ・「大雨」「津波」など、大きなテーマを選び、その中から特に詳しく知りたいことを決める。 ・さまざまな本や資料、インターネットを活用して情報を調べる。 ・分かったことはカードに書くなどして整理する。 3 文章の組み立てを考える。 ・P87の作例を読み、自分の考えを伝えるための書き方の工夫を見つけ、気づいたことを話し合う。 4 自分の考えをまとめた文章を書く。 ・挙げている理由や事例が考えを支えるものとなっているかを確認する。 ・文章の最後には、引用文献、参考文献をそれぞれ書く。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見直しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9 10	5 書いた文章を読み返す。 6 文章を読み合い、感想を伝える。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
12月	<b>冬の楽しみ</b> 2時間(書②) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬の行事の楽しさを伝えるかるたを作る。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1~2	1 挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、冬の行事や様子を表す言葉を考える。 ・絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。 2 自分の住む地域の冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作る。 ・読み札と取り札の書き方を確認する。 ・地域の冬の行事の楽しさを表す語句を使って読み札を作り、それに対応した取り札を作る。 ・完成したかるたで遊んだり、読み札の表現で工夫しているところを見つけて、伝え合ったりする。 ・季節を言葉で表現するよさを味わう	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。
1月	<b>自分だけの詩集を作ろう</b> 4時間(書②、読②) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩や詩集を読み、自分だけの詩集を作る。 ☆テーマに合った詩の収集(図書館活用)	1  2 3~4	1 3編の詩を読んで、それぞれの「月」の様子を思い浮かべ、感じたことを伝え合う。 ・3編の詩から想像される「月」が全く違うものであることや、自分と友達との感じ方に違いがあることに気づき、同じテーマで複数の作品を読むことの楽しさや感想を交流することのよさを味わう。 2 テーマを決めて、詩を集める。 ・言葉の使い方や書かれ方に目を向け、集めた詩とその理由をノートに書き出す。 3 集めた詩の中から自分の詩集に載せる詩を選ぶ。 ・自分の意図するテーマが明確になるように、集めた中からどの詩を載せるか検討し、載せる詩を選んだ理由を最後のページに書き、表紙や目次を付けて、本にする。 ・自分の意図するテーマについて、最後のページで説明をする。 4 できあがった詩集を読み合う。 ・友達と詩集を読み合い、テーマが伝わるかどうかや感じ方の違いについて交流する。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで目的を意識して詩を選び、学習の見通しをもって、自分だけの詩集を作ろうとしている。
1月	<b>言葉から連想を広げて</b> 2時間(書②) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■連想したことを基にひと言で詩を書く。	1~2	1 まど・みちお作「エンジン」を読み、連想を広げてひと言で詩を書くことに関心を高める。 2 P95の「にんじん」を中心にしたマップを例に、表現したいことからさまざまに発想を広げ、思いついた言葉を書き出す。 3 書き出した言葉を組み合わせたり、順序を変えたりして、どのように表現するのかを考える。 4 ひと言で詩を書き、互いに読み合う。 ・身の回りから題材を選んでひと言で詩を書く。 ・互いに読み合い、相手がなぜそのように表現しているのかを説明し合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、ひと言で詩を書こうとしている。
1月	<b>熟語の意味</b> 2時間(知・技②) ◎第4学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	1~2	1 「熟語」の意味を理解する。 2 訓を手がかりに熟語の意味を考える。 ・熟語を訓で読んでその意味を考え、友達と説明し合う。 3 漢字の組み合わせから熟語の意味を考える。 ・漢字の組み合わせを手がかりに熟語の意味を考え、友達と説明し合う。 ・国語辞典や漢字辞典を引き、熟語の意味と自分たちの説明が一致するか確かめる。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ 【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。
1月	<b>漢字の広場⑤</b> 2時間(書②) ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめた	1~2	1 教科書の絵を見て、休日の様子を想像し、3年生までに習った漢字を使って、文章を書く。 2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確かめ、間違いを直す。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>読んだ表現に基づいて自分の考えを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)  <b>■</b>絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>		<p>3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることよさを実感する。</p>	<p>かめたつして、文や文章を整えている。(B(1)エ)  <b>【態】</b>進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。</p>
1月	きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう			
	<p>風船でうちゅうへ                      8時間(読⑧)                      ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)                      ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)                      ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)                      ○様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)  <b>■</b>興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書く。                      ☆調査・結果・考察など、記録・報告における事実と考えの整理(理科、総合的な学習の時間)</p>	<p>1 2 3~6 7 8</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。                      ・P99を見て、題名やリード文から、文章の内容を想像する。                      ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。                      2 文章の内容を確かめ、興味をもったところをはっきりさせる。                      ・「もっと読もう」も併せて読み、自分が最も興味をもったことを明確にする。                      3 興味をもったことに沿って大事な言葉や文を書き出して要約し、友達と読み合う。                      ・書き出した言葉や文を使ったり、自分の言葉を用いたりして文章を要約する。                      ・交流を通して、興味をもったところが違えば要約のしかたも異なることに気づく。                      4 教材文を紹介する文章を書く。                      ・要約した文章を使い、感想とともに教材文を紹介する文章を書く。                      ・「何の話か」「要約」「感想」という構成で、教材文を紹介する文章を書く。                      5 友達と紹介文を読み合う。                      ・自分との違いや、「いいな。」と思うところを伝え合う。                      6 学習を振り返る。                      ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。                      ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p><b>【知・技】</b>                      ・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)                      ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)  <b>【思・判・表】</b>                      ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)                      ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)  <b>【態】</b>進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書こうとしている。</p>
2月	言葉について考えよう			
	<p>つながりに気をつけよう                      4時間(知・技①、書③)                      ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)                      ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)  <b>■</b>つながりに気をつけて文章を書く。</p>	<p>1 2~3 4</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。                      ・P113を読み、「問いをもとう」を基に、分かりやすく書くために必要なことを考える。                      2 言葉と言葉のつながりについて考える。                      3 例文を比較して、文と文のつながりについて考える。                      4 例文を比較して、1文の長さについて考える。                      ・例文を読み、1文にまとめることで分かりやすくなることもあることを知る。                      5 P116の文章を、分かりやすくなるように書き直す。                      ・これまでの学習内容をいかして書き直す。                      ・友達と、どこをどのように直したのかを説明する。                      6 学習を振り返る。</p>	<p><b>【知・技】</b>主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。(1)カ)  <b>【思・判・表】</b>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)  <b>【態】</b>進んで、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習をいかして、つながりに気をつけて文章を書く。</p>
2月	言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう			
	<p>心が動いたことを言葉に                      7時間(書⑦)                      ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていることができる。(思・判・表B(1)オ)                      ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)                      ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)  <b>■</b>心が動いたことを詩に書いて友達と読み合う。</p>	<p>1 2~3 4 5~6 7</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。                      ・心を動かされたことを振り返り、紹介し合う。                      ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。                      2 詩に書きたいことについて詳しく書き出す。                      ・心を動かされたことの中から、最も伝えたい題材を選ぶ。                      3 詩の組み立てを考える。                      ・どんな詩を書きたいか、行数や連の数などから考えてみる。                      4 言葉を選んで、詩を書く。                      ・心を動かされたときのことについて、いちばん伝えたいことを中心に連想を広げて言葉を書き出す。                      ・書いた作品を読み返し、心が動かされたときのことについて感想を伝え合う。                      5 友達の詩の工夫を見つけ、感想を伝え合う。                      6 学習を振り返る。                      ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p><b>【知・技】</b>                      ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)                      ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解している。(1)カ)  <b>【思・判・表】</b>「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)  <b>【態】</b>進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして、心が動いたことを言葉にして書いた詩を読み合っている。</p>

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
2月 ～ 3月	<p>調べて分かったことを話そう</p> <p>調べて話そう、生活調査隊 8時間(話・聞⑧)</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考慮することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>■調査の報告をする。 ☆目的を意識して調査結果を整理、発表(社会、理科、総合的な学習の時間) ☆ICT端末を活用した録音・録画(ICT活用)</p>	1  2～4  5～6  7～8	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・普段の生活の中で疑問に思ったことを出し合い、題材への関心を高める。 ・「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 調べたいことを決める。 ・自分やみんなの生活について、感じていることをグループで出し合い、調べたいテーマを決める。</p> <p>3 アンケートを取り、結果を整理する。 ・4上P98「アンケート調査のしかた」を参考に、アンケート調査をした経験をいかしてアンケートを取る。</p> <p>4 組み立てを考え、資料を作る。 ・アンケートから分かったことを明確にして、グラフや表にまとめる。</p> <p>5 発表する準備をする。 ・P123「発表の例」を読んだり、動画を見たりして分かりやすく伝えるための工夫を考える。 ・互いの練習の様子を動画で撮影して工夫点を確かめる。</p> <p>6 発表し、感じたことを伝え合う。 ・話し方の工夫を意識して発表する。 ・自分の生活と比べながら聞き、質問をしたり発表のよかったところを伝えたりする。 ・友達の感想から、自分の考えが正しく伝わっているか考える。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えていく。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【態】進んで、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習をいかして、調査の報告をしようとしている。</p>
3月	<p>読んで考えたことを、友達と伝え合おう</p> <p>スワンレイクのほとりで 7時間(読⑦)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>■物語を読んで考えたことを伝え合う。</p>	1  2 3～5  6  7	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P125を見て、題名やリード文から物語を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 物語の組み立てや、登場人物の気持ちを確かめる。</p> <p>3 登場人物の気持ちの変化を、観点を選んで考える。 ・同じ観点や違う観点の人と、どのような考え方をしているか、理由とともに考える。</p> <p>4 物語の最後で、登場人物が書こうとしていることは何かを、理由とともに考える。</p> <p>5 考えたことを伝え合い、自分の考えと比べながら聞いて、感じたことを話す。 ・交流を通して新たに気づいたことや、一人一人の解釈や感じ方の違いを振り返る。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。</p>	<p>【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)</p> <p>【態】進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見直しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</p>
3月	<p>漢字の広場⑥ 2時間(書②)</p> <p>◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1～2	<p>1 教科書の絵を見て、1年間の出来事を振り返ったり想像したりし、3年生までに習った漢字を使って、学級新聞の記事を書く。</p> <p>2 書いた記事を読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認し、間違いを直す。</p> <p>3 書いたものを友達と読み合い、漢字を正しく用いることよさを実感する。</p>	<p>【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。</p>
3月	<p>四年生をふり返って 1時間(書①)</p> <p>◎言葉には、考えたことや思ったこと</p>	1	<p>1 1年間の学び全体を振り返る。</p> <p>2 P146『『たいせつ』のまとめ』などを見て、どのようなことを学んだのか確かめる。</p>	<p>【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p>

国語 評価規準 【4年】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■1年間の国語科での学びを振り返り、書く。</p>		<p>3 特に身についたと思う言葉の力を書きまとめる。</p>	<p>【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】進んで経験したことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。</p>